

大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択）中間評価結果

大 学 名	鹿児島大学
整理番号	AA05
事 業 名	米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	
<p>本プログラムは、鹿児島から米国、そしてアジア諸国の大学を繋ぎ、三極連携により「多極化する世界をつなぐ」を共通テーマとするプログラムで、グローバルな視点とネットワークを武器に、多極化する世界が抱える課題に取り組む人材や、多様性を尊重し、民主的で協調主義的な国際秩序の形成と維持に寄与する人材の育成を目的として実施している。</p> <p>海外相手大学との国際協働学習コースのプログラム開発も順調に進んでおり、海外相手大学数も当初予定を上回っている。また、「三極連携リサーチ・プログラム」では各コースの専門性に応じて地域の関係企業並びに諸機関との連携・協働がよく図られ、情報共有などの継続性が効果を上げている。交流学生数については、プログラム開始から派遣・受入ともに計画人数を上回り、COIL 型教育手法を用いた授業科目も順調に開設され、受講者数の増加からも COIL 型授業の活用が十分確認できる。食の安全コースでは FDA（米国食品医薬品局）公認のリードインストラクター資格を持つ連携校教員が指導を行い、コース修了者には授業単位に加えて、米国認定の PCQI（Preventive Controls Qualified Individuals）資格が付与されるなど、意欲的な取組は評価できる。大学の国際化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信も積極的に発信され、他大学への成果普及にも努めている。</p> <p>一方で、学生の外国語力向上のための取組はきめ細かくなされているものの、一部目標値には至らなかった点については、引き続き向上に向けた取組を継続することが望まれる。また、海外相手大学数が多いため、プログラムの円滑な進展を目指した管理体制の構築と、評価体制を確立し、内部・外部の評価を実施し、それに基づいた質保証が十分に担保されることが望まれる。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>	